

「外国為替証拠金取引の取引顧客における 金融リテラシーに関する実態調査」の概要

2018年4月



調査概要

調査対象者: 全国 20~70 代一般男女個人より、現在取引者(調査時点で FX 取引を行っている人)を優先して抽出し、過去取引者(過去に FX 取引を行ったことがある人)についても直近の取引が調査時点に近い人を優先して抽出した(㈱日本リサーチセンターWEB パネルおよび提携パネルより抽出)。対象者数は計 1,000sとした。

対象者構成: 2017 年に実施した「金融先物取引に関する個人投資家の意識調査」(全国一般男女個人対象/2,000s回収)の調査結果より、「外国為替証拠金取引(FX)経験者」の出現率を利用し、FX 取引経験者を合計 1,000s回収する場合の性・年代別対象者の構成表を作成(下記の表を参照ください。)し、サンプルを割り付けて構成した。性・年代別に当該構成表を作成した結果、10 代刻みではサンプル些少となる区分については、年代をまとめて割り付ける方法で整理した。

性・年代別対象者の構成表

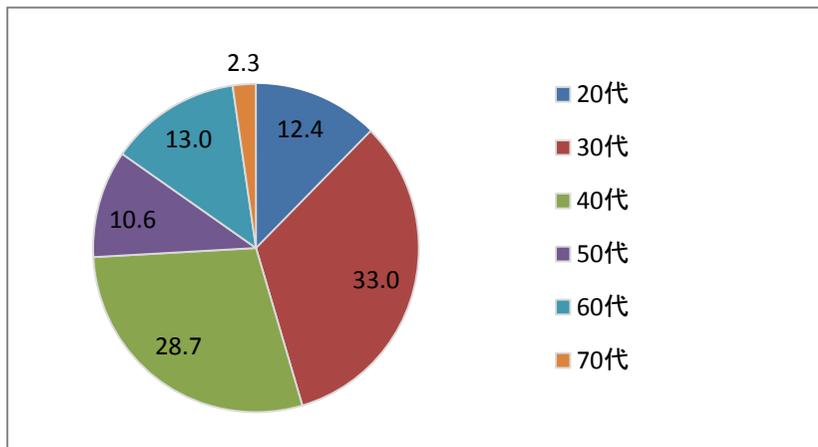
全体	男性						女性			
	男性計	20代	30代	40代	50代	60~70代	女性計	20~30代	40~50代	60~70代
1000	763	104	268	222	66	103	237	82	105	50

調査方法: インターネット調査

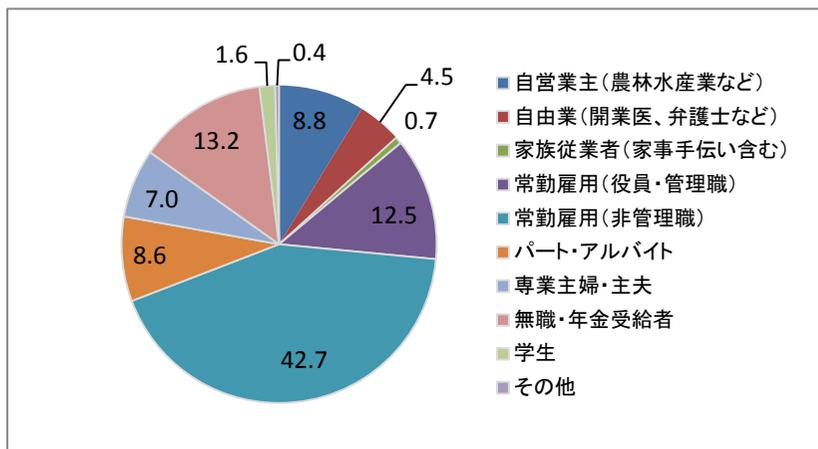
調査実施期間: 2018年2月23日(金)~同3月1日(木)

調査対象者(回答者)の属性

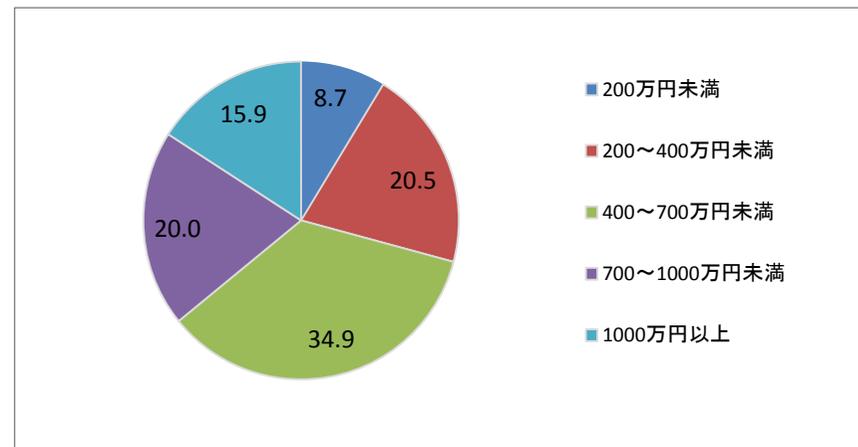
①調査対象者(回答者)の世代別分類 [%、n=1,000]



②調査対象者(回答者)の職業別分類 [%、n=1,000]



③調査対象者(回答者)の年収別分類 [%、n=1,000]

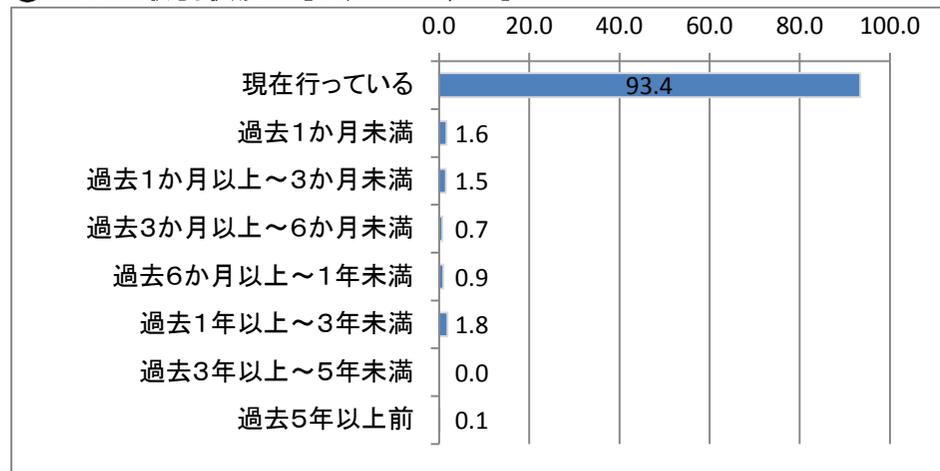


・調査対象者(回答者)(以下省略)の職業別分類については『常勤雇用(役員並びに管理職及び非管理職の者の合計)』の全体に占める割合は全体の約55%、無職・年金受給者は約13%となった。

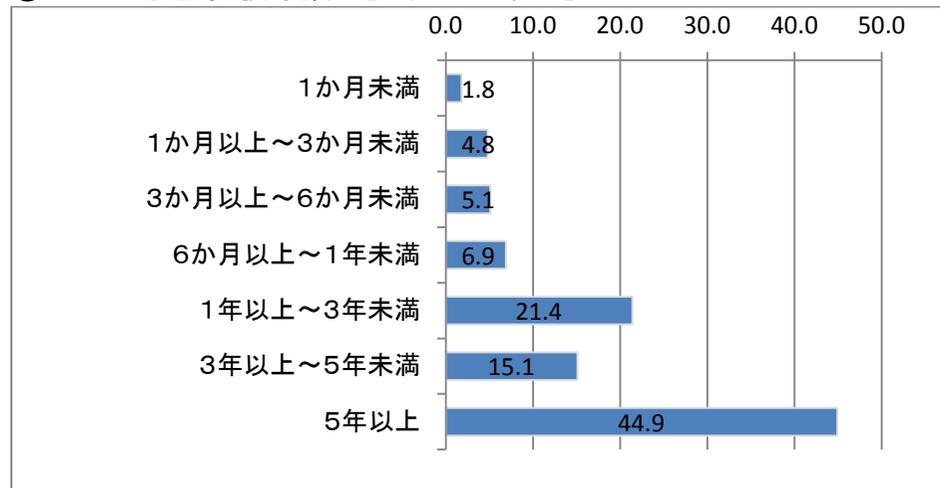
・年収については「400~700万円未満」が34.9%であり最も多く、『年収700万円未満』迄を合計すると全体の64.1%を占める。

1. 外国為替証拠金取引（FX）の取引状況

① FXの取引状況 [%、n=1,000]



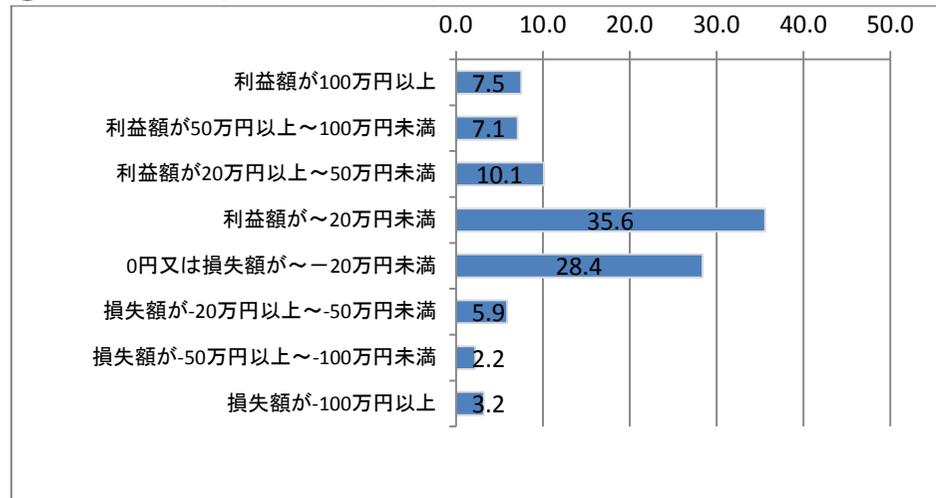
② FXの取引経験年数 [%、n=1,000]



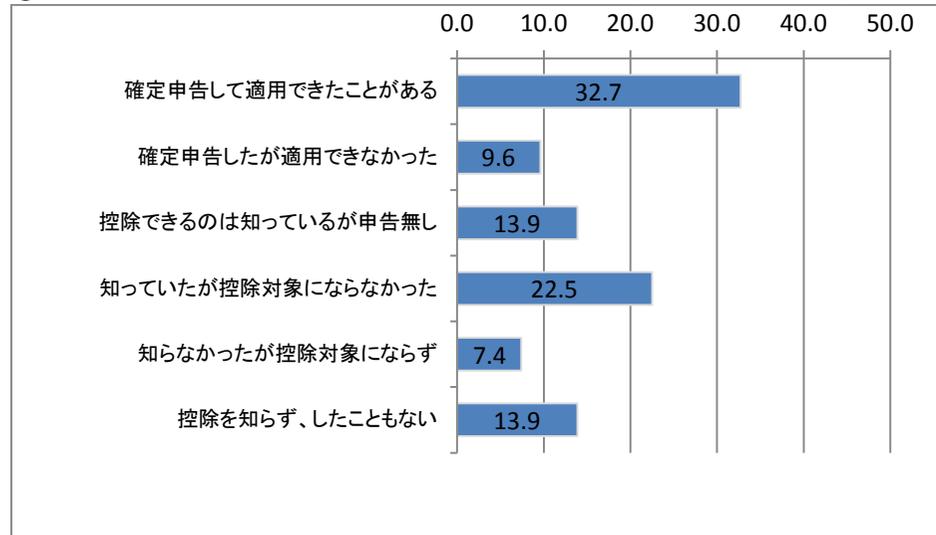
・本調査における回答者のFXの取引状況については、現在FX取引を行っている人が約93%となった。

・FXの取引経験年数は『1年以上』の合計が81.4%、「5年以上」が44.9%となった。

③ F Xによる昨年の利益額（損失額） [%、 n=1,000]



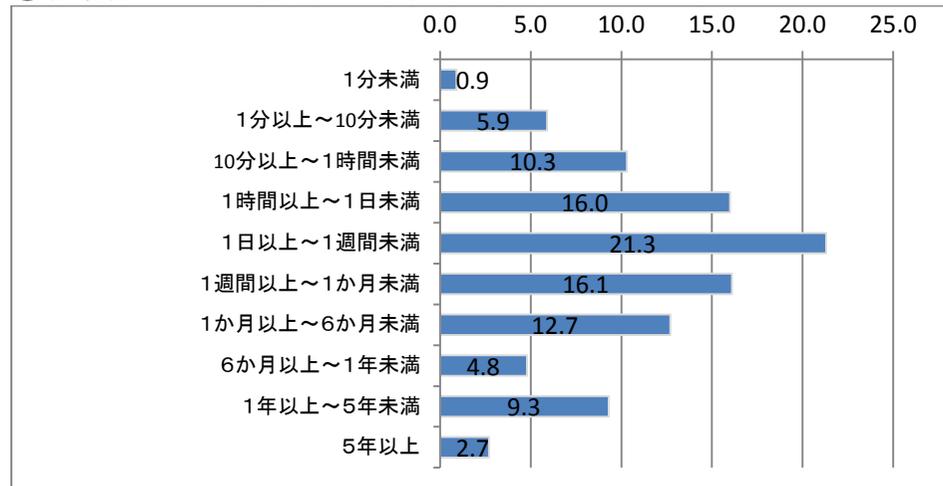
④ F Xによる損失の繰越控除の認知と利用状況 [%、 n=1,000]



・ F Xによる昨年の利益額（損失額）については、「利益額が～20万円未満」が 35.6%、「0円又は損失額が～-20万円未満」が 28.4%であり、『-20万円未満～20万円未満』の合計で 64.0%となった。

・ F Xによる損失の繰越控除の認知と利用状況については、「控除したことがある（確定申告して、適用できたことがある）」が 32.7%、「控除したことがない（控除できることを知っていたが、年間で利益となったので、控除の対象にはならなかった）」が 22.5%となった。

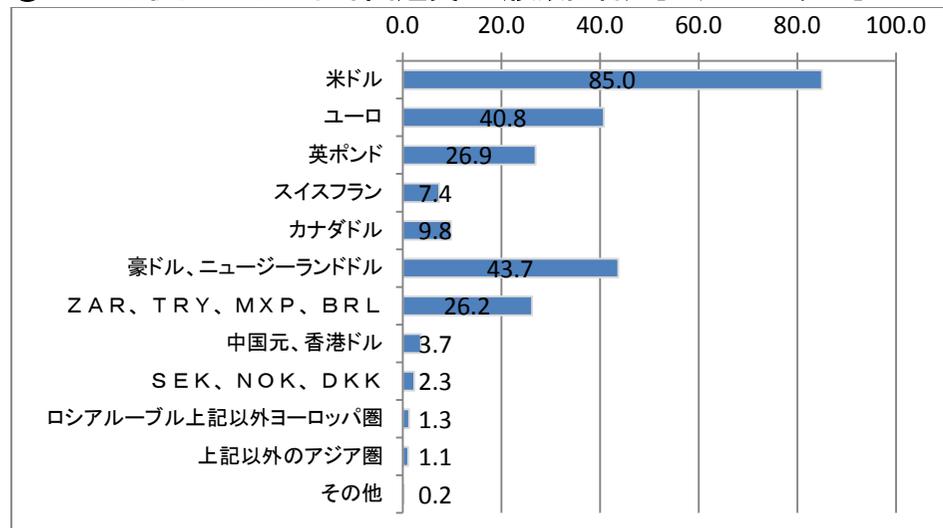
⑤新規建玉の平均的な保有期間 [%、n=1,000]



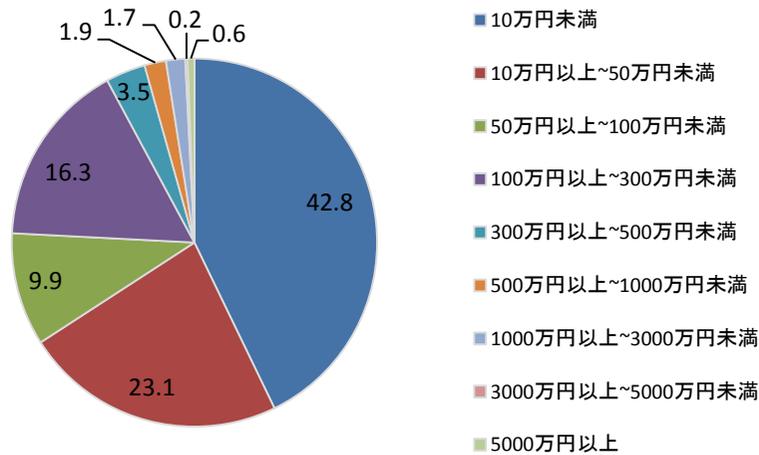
・新規建玉の平均的な保有期間については、「1日以上～1週間未満」が 21.3%と最も高く、次いで「1週間以上～1か月未満」(16.1%)、「1時間以上～1日未満」(16.0%) がほぼ同程度となった。

・FXで取引している通貨については、最も取引している通貨は「米ドル」が 85.0%であり、次いで「豪ドル、ニュージーランドドル」(43.7%)、「ユーロ」(40.8%) が4割台、「英ポンド」(26.9%)、「南アフリカランド、トルコリラ、メキシコペソ、ブラジルリアル」(26.2%) が2割半ば等となった。

⑥FXで取引している外国通貨 (複数回答) [%、n=1,000]



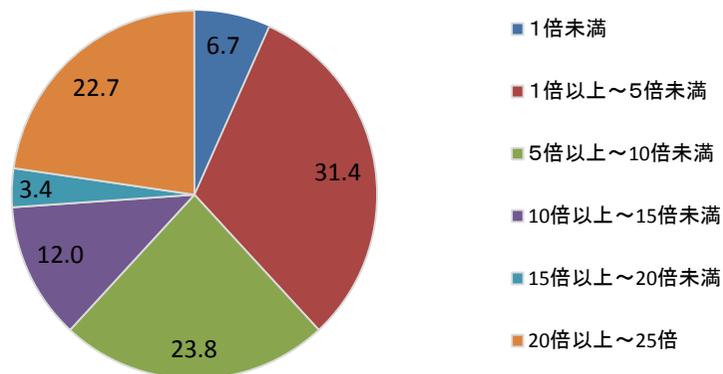
⑦新規取引1回あたりの平均的な取引金額 [%、n=1,000]



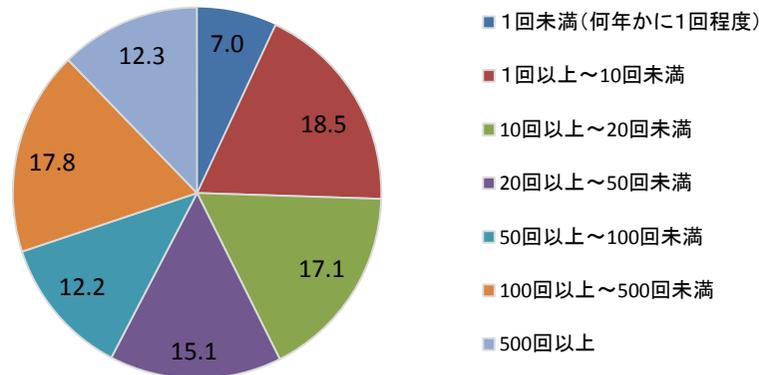
・ F X の新規取引 1 回あたりの平均的な取引金額については、「10 万円未満」が 42.8%と最も高く、次いで「10 万円以上~50 万円未満」が 23.1%、100 万円以上の区分の合計した割合は 24.2%となった。

・ F X 取引の際の証拠金倍率については、「1 倍以上~5 倍未満」が 31.4%、「5 倍以上~10 倍未満」が 23.8%、「20 倍以上~25 倍以下」が 22.7%となった。

⑧ F X における取引の際の証拠金倍率（実効倍率） [%、n=1,000]



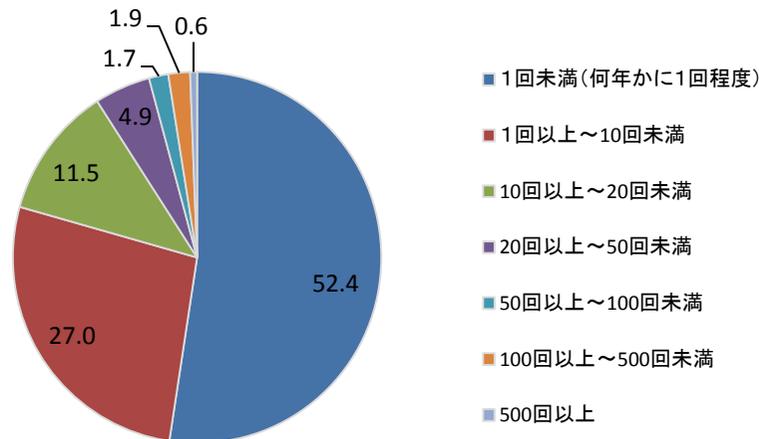
⑨ F Xにおける年間取引回数 [%、 n=1,000]



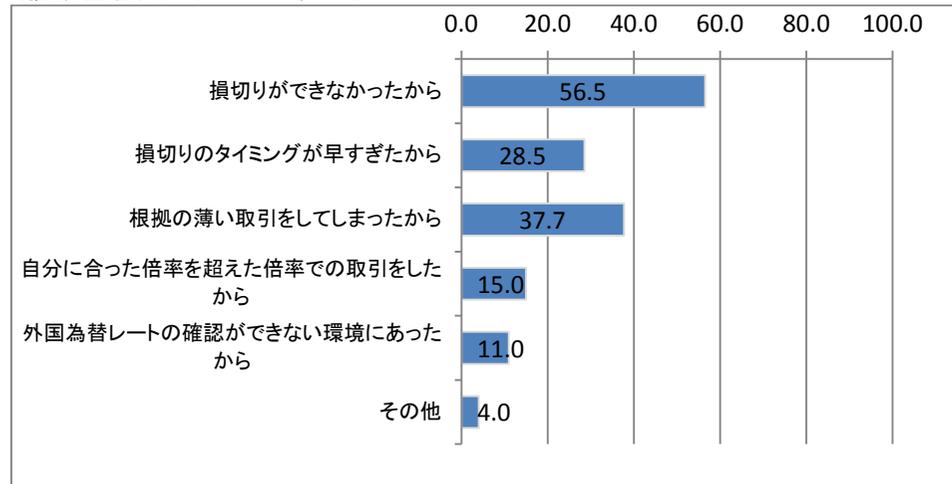
・ F Xの年間取引回数については、「1回以上~10回未満」が18.5%、「100回以上~500回未満」が17.8%等、殆どの選択肢が均等に分散し概ね1割台となっている。20回以上の区分の合計は57.4%を超えている。

・ 年間のロスカット取引回数は、「1回未満(何年かに1回程度)」が52.4%と過半数以上となった。

⑩年間のロスカット取引回数 [%、 n=1,000]



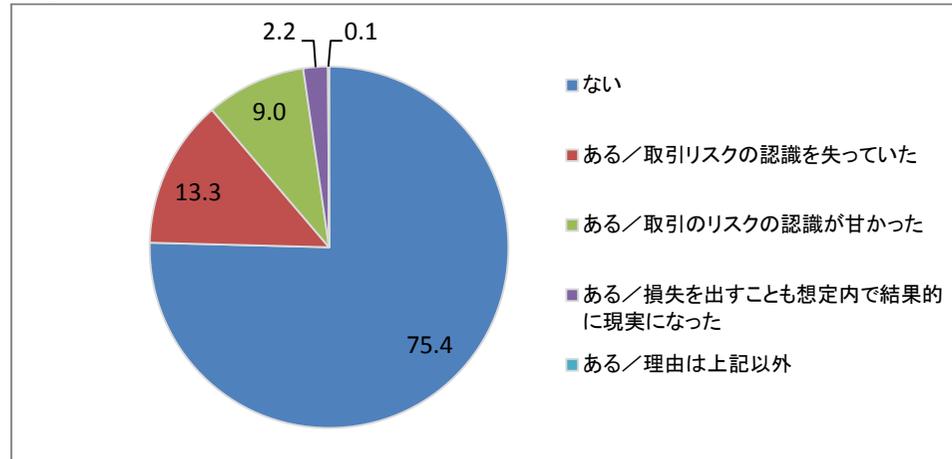
⑪ F Xの取引を行った際に損失を出してしまった原因
(複数回答) [%、 n=1,000]



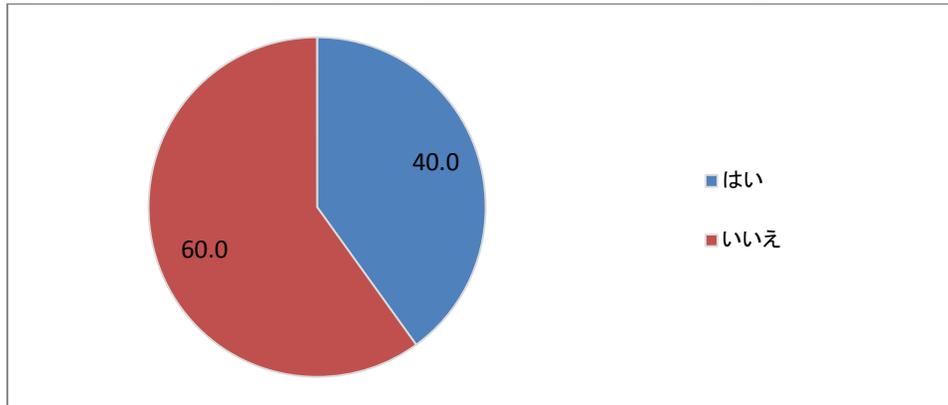
・ F Xの取引を行った際に損失を出してしまった原因については、「損切りができなかったから」が56.5%で最も高い。次いで「根拠の薄い取引をしてしまったから」(37.7%)、「損切りのタイミングが早すぎたから」(28.5%)となった。

・ F X取引業者へ預け入れた証拠金(資産)以上に損失を被った経験の有無については「ない」が75.4%を占めた。当該経験が「ある」場合の割合とその原因については、「ある／取引のリスク及びリターンに対する認識を失っていた」が13.3%、「ある／取引のリスクの認識が甘かった」が9.0%、「ある／損失を出すことも想定内で結果的に現実になった」が2.2%、「ある／理由は上記以外」が0.1%となった。

⑫ FX 取引業者への預入証拠金(資産)以上に損失を被った経験有無と原因 [%、 n=1,000]



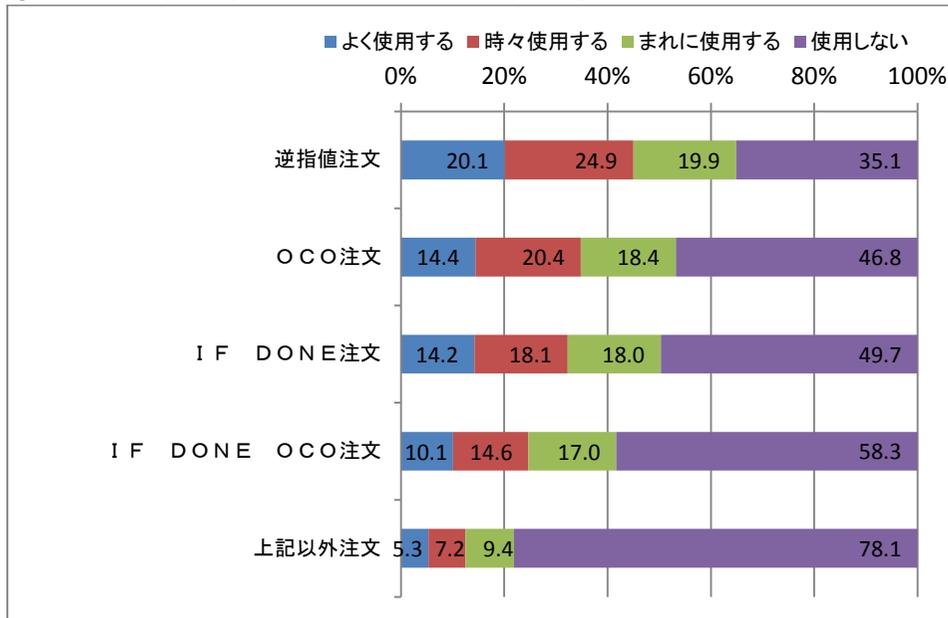
⑬ F Xで利益を出す手法を会得しているか[%、n=1,000]



・ F Xで利益を出す（時には損失を出すこともあるが、総じて利益を出す）ことができる投資手法を会得しているかについては、「はい（会得している）」が40%、「いいえ（会得していない）」が60%となった。

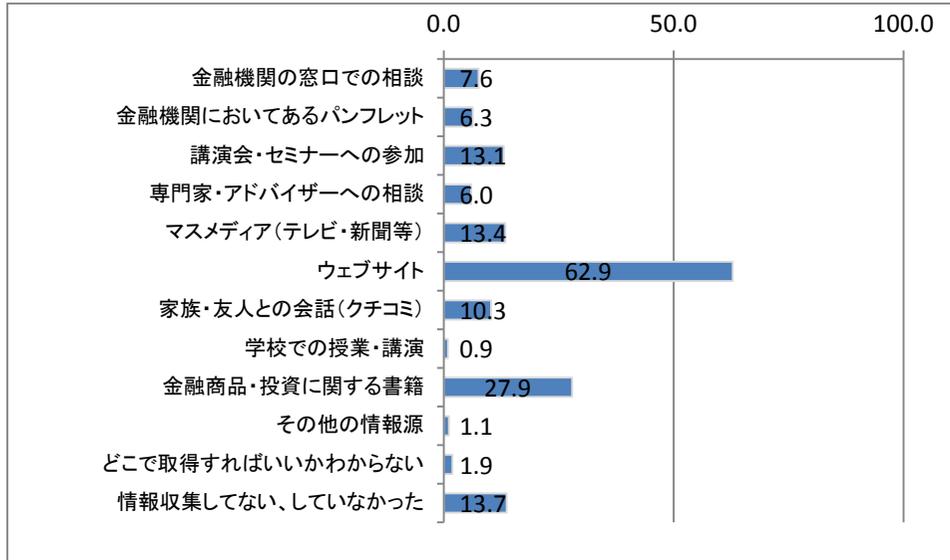
・ F Xを行う際の指値（及び成行）注文以外の注文についての使用状況は、「よく使用する」及び「時々使用する」の合計で見ると、逆指値注文が45.0%と最も高く、次いで「OCO注文」が34.8%、「IF DONE注文」が32.3%で約3割程度であり、「IF DONE OCO注文」が24.7%、「その他の注文」が12.5%となった。

⑭ 指値（及び成行）注文以外の注文における使用状況 [%、n=1,000]



2. 外国為替証拠金取引（FX）に関する情報収集・投資方針

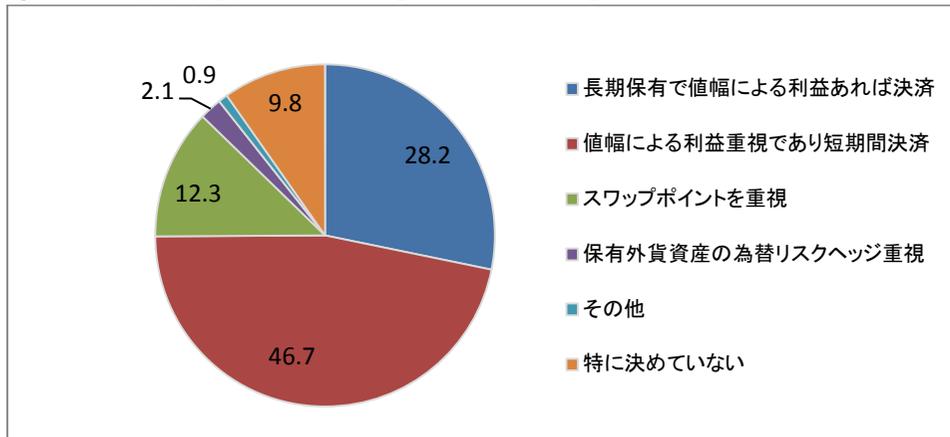
① FXに関する主な情報収集方法（複数回答、3つ迄） [%、n=1,000]



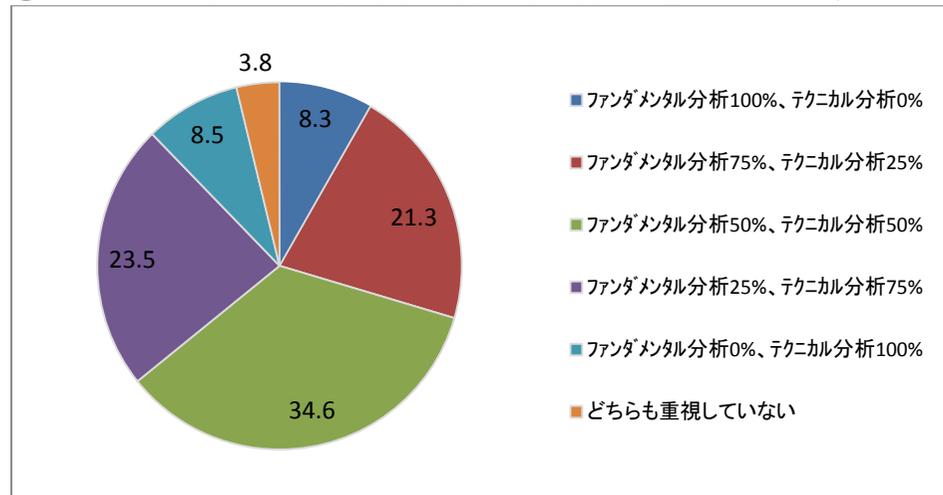
・FXに関する情報収集方法については、「ウェブサイト」が62.9%で群を抜いて高い。次いで「金融商品・投資に関する書籍」(27.9%)、「マスメディア(テレビ・新聞等)」(13.4%)、「講演会・セミナーへの参加」(13.1%)等となった。

・FXの投資方針については、「値幅による利益重視であり、短期間に決済する」が46.7%と最も高く、次いで「概ね長期保有だが、ある程度値幅による利益があれば決済する」が28.2%となった。

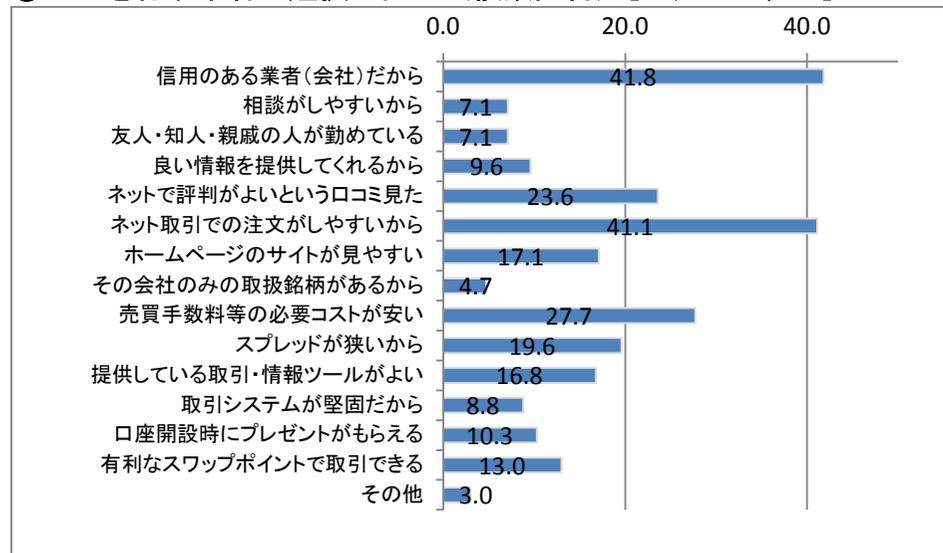
② FXの投資方針について [%、n=1,000]



③ファンダメンタル分析及びテクニカル分析における重視の程度[%、n=1,000]



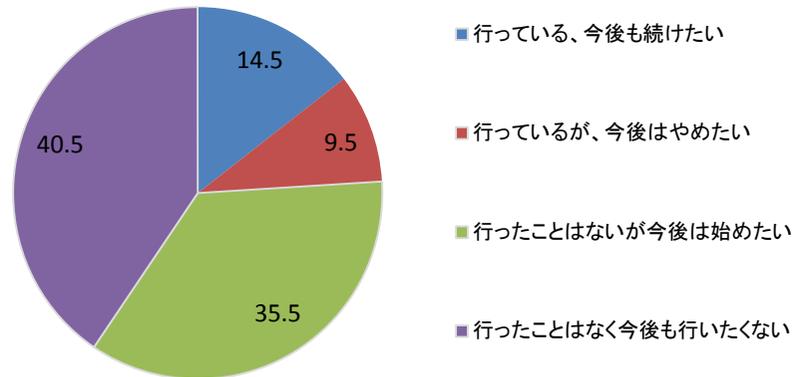
④FXを行う業者の選択理由 (複数回答) [%、n=1,000]



・ファンダメンタル分析及びテクニカル分析における重視程度については、「ファンダメンタル分析 50%、テクニカル分析 50%」が 34.6%、『テクニカル分析 75%以上』及び『ファンダメンタル分析 75%以上』が合計でそれぞれ約3割であり、これらが概ね全体を3分割した結果となった。

・FX取引業者を選んだ理由としては、「信用のある業者だから」(41.8%)、「インターネット取引での注文がしやすいから」(41.1%)がほぼ同率で高い。次いで「売買手数料等の必要コストが安いから」(27.7%)、「インターネット上で評判がよいという口コミ等をみたから」(23.6%)が2割台となった。

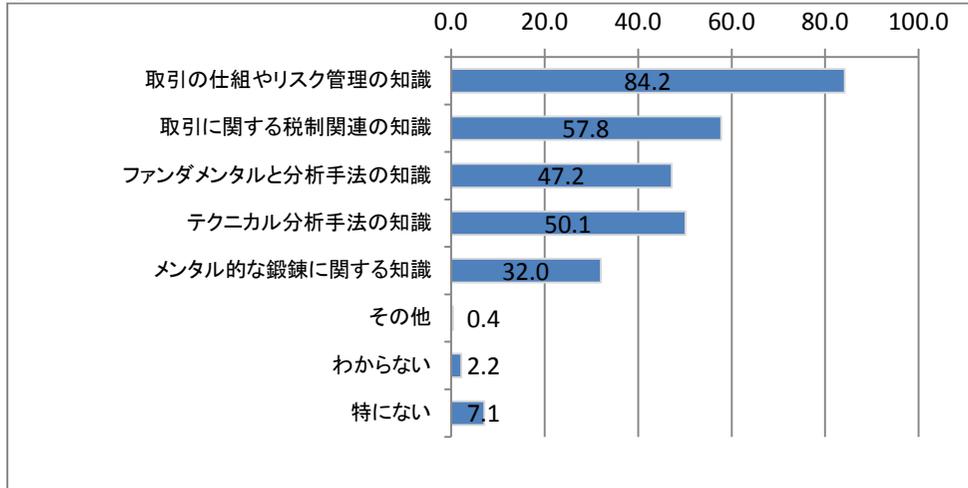
⑤コンピュータープログラムに従った自動売買を行ったことがあるか[%、n=1,000]



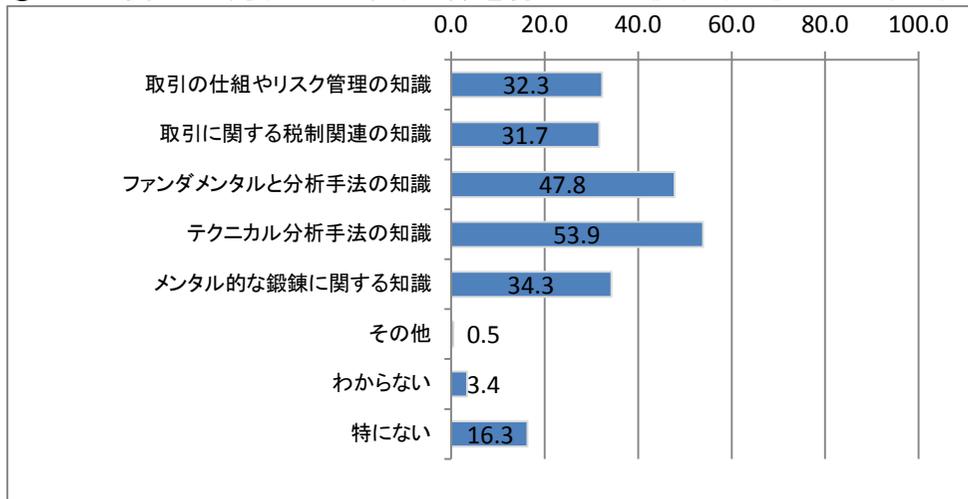
・コンピュータープログラムに従った自動売買を行ったことがあるかについては、『行っている』（経験有）との回答は合計で24.0%であり、コンピュータープログラムに従った自動売買を「行っており、今後も続けたい」又は「行ったことはないが、今後は始めたい」と回答したものは合計で50.0%となった。各区分別では「行ったことはなく、今後も始めたくない」が40.5%、「行ったことはないが、今後は始めたい」が35.5%となった。

3. 外国為替証拠金取引（FX）や金融全般に関する知識・理解度

① FXに関して今までどのような知識を得たか（複数回答） [%、n=1,000]



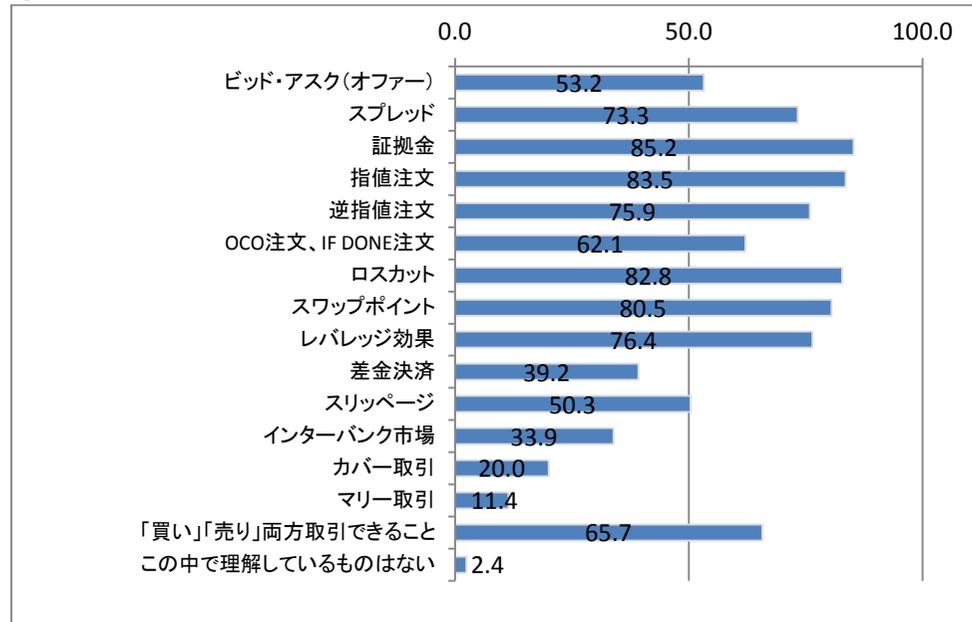
② FXに関して今後どのような知識を得たいか（複数回答） [%、n=1,000]



・FXに関して今までどのような知識を得てきたかという問いについては、「取引の仕組みやリスクとその管理に関する知識」（84.2%）が最も多く、続いて「取引に関する税制関連の知識」（57.8%）となった。

・FXに関して今後得たい知識としては、「テクニカル分析」が53.9%、「ファンダメンタル分析」が47.8%で、この2区分が5割前後となった。

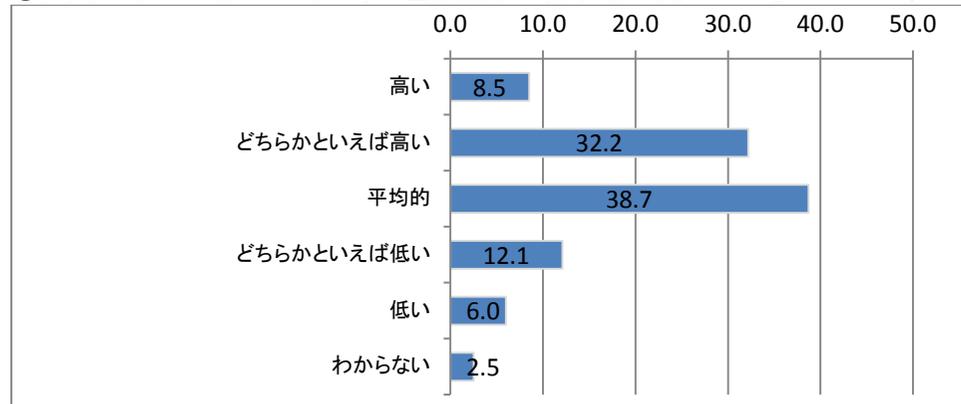
③FXに関する用語のうち、理解しているもの（複数回答）[%、n=1,000]



・FXに関する用語のうち、理解しているもの（理解度）については、「証拠金」「指値注文」「ロスカット」「スワップポイント」が8割台、「レバレッジ効果」「逆指値注文」「スプレッド」が7割台であり、取引に直結する用語がその他の用語よりも理解しているとの回答が高い結果となった。

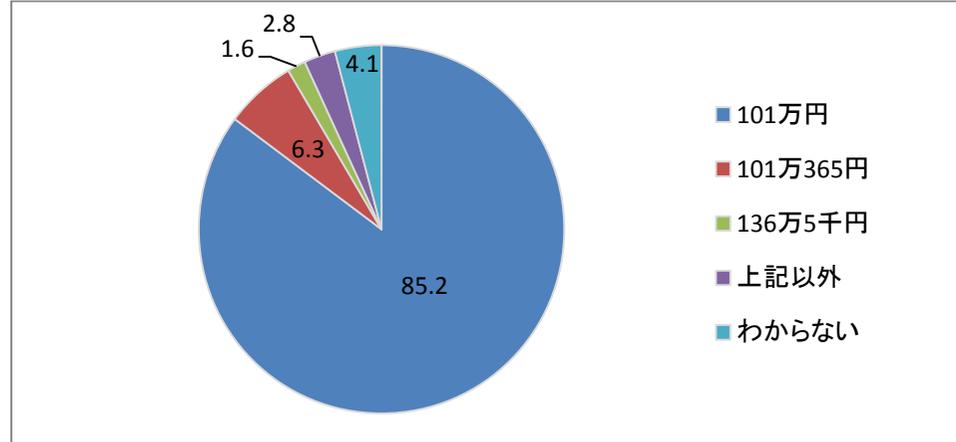
・他の人（世間一般の人）と比べた自身の金融全般に関する知識レベルの程度を何う問いについては、「高い」及び「どちらかといえば高い」の合計で40.7%、「平均的」が38.7%、「低い」及び「どちらかといえば低い」の合計が18.1%であった。

④世間一般の人と比べた自身の金融全般に関する知識レベル[%、n=1,000]



⑤ 預金の年利についての理解度 [%、n=1,000]

問:100万円を年率1%の利息で預け入れた預金の税金は考慮しない1年後の預金口座残高はいくらか。

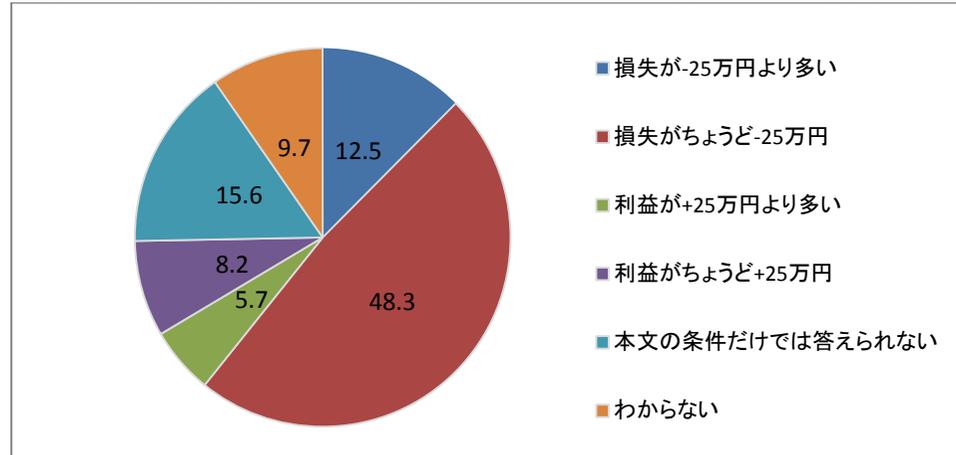


・ 預金の年利についての理解度を見るべく、左記のような設問（単利計算）を設け、その回答の結果においては「101万円」が85.2%となった。

・ FXにおける取引売買損益の理解度を見るべく、左記のような設問（値幅損益計算）を設け、その回答の結果については「損失がちょうど-25万円」が約半数の48.3%となった。

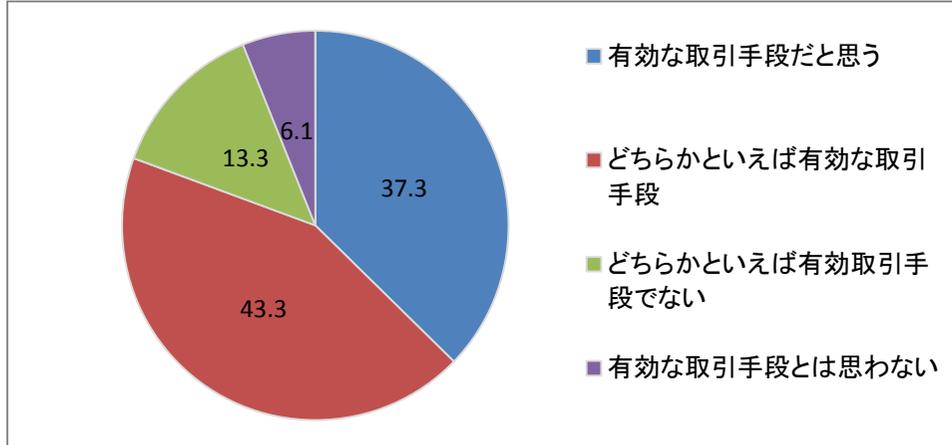
⑥ FXにおける取引売買損益の理解度 [%、n=1,000]

問:外国為替レートが1米ドル=100円の時、FXを行い100万円の証拠金を使用し証拠金倍率25倍で米ドル買い-日本円売り建玉を保有した。その後、米ドル-日本円の外国為替レートが、円高の方向に1%変化した場合の評価損益額はいくらか。（但し、外国為替レートの変化以外のことを考慮しない。）

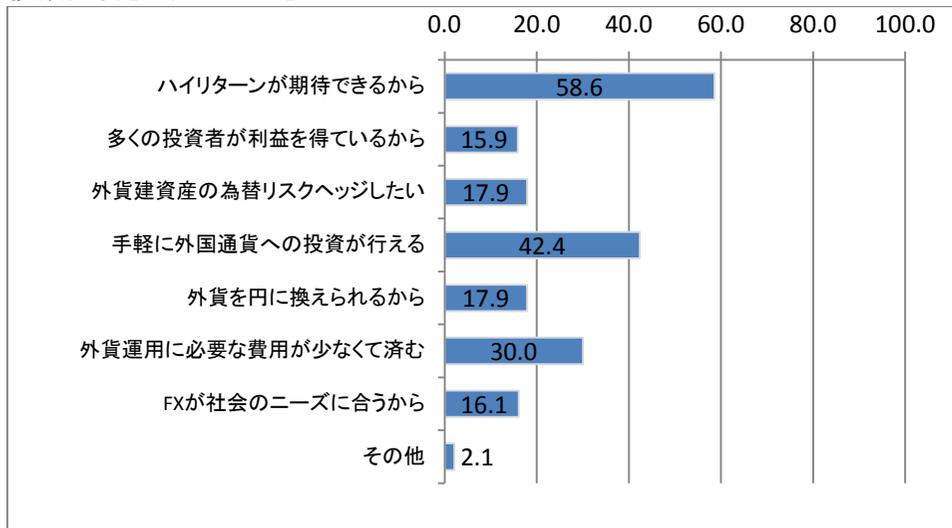


4. 外国為替証拠金取引（FX）や制度・サービスに対するイメージ・要望

①金融資産を増やすために、FXは有効な手段だと思いますか[%、n=1,000]



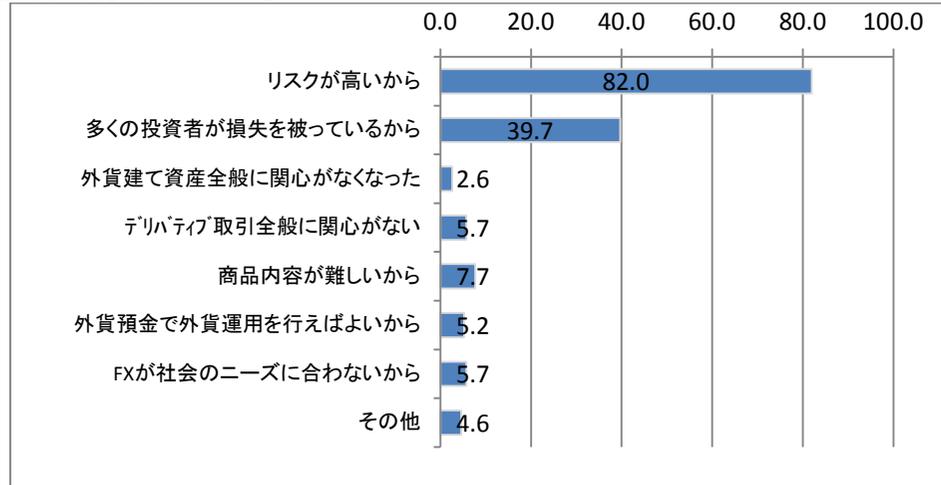
②金融資産を増やすために、FXが有効な取引手段だと思う理由 複数回答[%、n=806]



・金融資産を増やすためにFXは有効な手段だと思いますかという問いについては、「有効な手段だと思う」が37.3%、「どちらかといえば有効な手段だと思う」が43.3%であり、これらを合計すると全体の8割以上となった。

FXが有効な手段だと回答した人に対して、その理由を聞いた結果については、「ハイリターンが期待できるから」が58.6%で最も高く、以下、「手軽に外国通貨への投資が行えるから」(42.4%)、「外貨預金や他の外貨建ての金融商品よりも外貨運用をするにあたり必要な費用等が少なくて済むから」(30.0%)等の順となった。

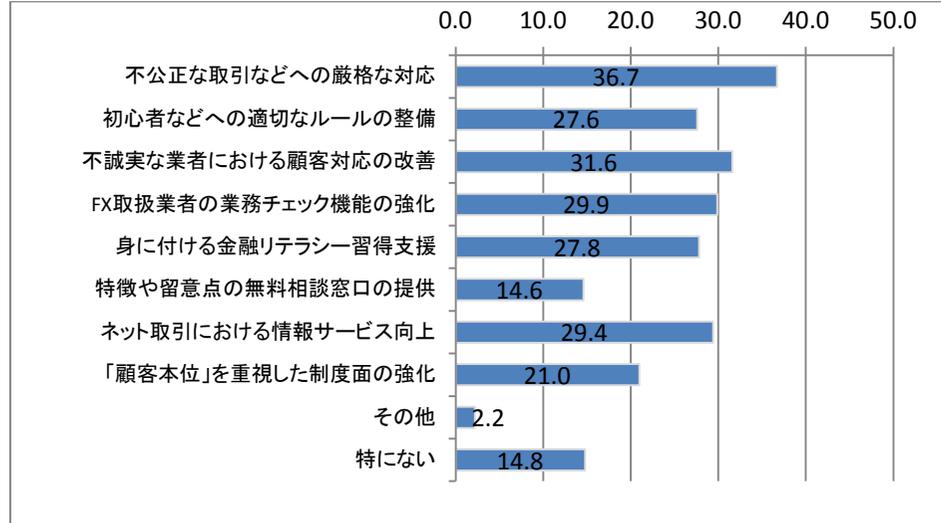
③金融資産を増やすために、FXが有効な取引手段だと思わない理由
複数回答[%、n=194]



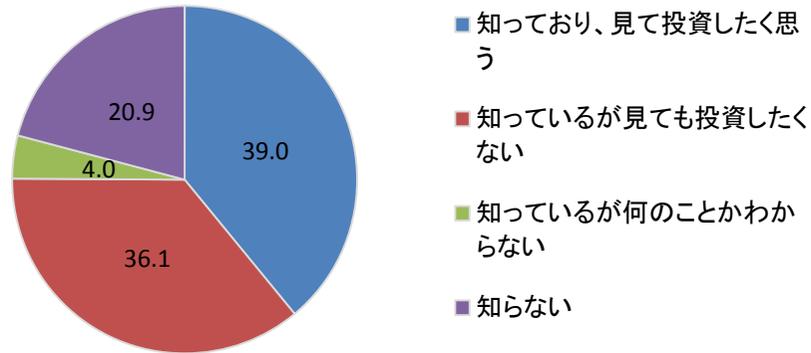
・FXが有効な手段だと思わないと回答した人に対して、その理由を聞いた結果については、「リスクが高いから」が82.0%、「多くの投資家が損失を被っているから」が39.7%となった。

・FXを行う上で、制度やサービスを強化したほうが良いと思うことについては、「不公正な取引などへの厳格な対応」が36.7%であり、以下「不誠実な業者における顧客対応の改善」(31.6%)、「外国為替証拠金取引の取扱業者に対する業務・財務面におけるチェック機能の強化」(29.9%)、「インターネット取引における情報・サービスの向上」(29.4%)となった。

④制度やサービスを強化したほうが良いと思うこと 複数回答[%、n=1,000]



⑤スプレッドを表記している広告について [%、n=1,000]



・スプレッド広告については、「知っており、その広告の内容を見て、投資したいと思う気持ちになる」が39.0%、「知っているが、その広告の内容を見て、投資したいと思う気持ちにはならない」が36.1%となった。

平成 29 年度 「外国為替証拠金取引の取引顧客における金融リテラシーに関する実態調査」の概要

編集及び本件に対するお問い合わせ：

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町 1-3 NBF 小川町ビルディング

一般社団法人 金融先物取引業協会 調査・分析プロジェクト T （担当：倉形）

禁無断転載